

西尾正道医師 講演会

入場無料・予約不要

「内部被ばくを考える」

～福島原発事故後の望ましい健康管理のあり方について～

2018年 10月21日(日) 14～17時 13時30分開場

エルパーク仙台 5Fセミナーホール

仙台市青葉区一番町4丁目11-1 (裏面地図をご参照ください)



左写真：乳頭がん（甲状腺超音波診断ガイドブック改訂第3版より）、右写真：福島第一タンクエリア（東京電力ホームページより）

東京電力福島第一原子力発電所事故による放射能汚染の健康影響を巡って、専門家間において様々な意見が表出しています。福島県では今も避難指示区域住民や事故当時18才以下の子どもたち、妊産婦への長期継続的な健康調査が県により実施され、その中で、甲状腺がん、悪性疑いの子どもたちが200人強確認されています（2018年3月31日現在）。事故初期の放射能プルームが通過した宮城県内や福島県外においては何ら健康調査を行わなくてもいいのでしょうか。

西尾正道医師は人体内部におけるがんへの小線源治療を多用した放射線治療医で、がんのメカニズムや放射線利用の明暗に精通した第一人者です。セシウム・ホットパーティクルと呼ばれる放射性微粒子などによる内部被ばくの実態や低線量被ばくによる健康への臨床的検証。また、1000兆ベクレルにもものぼるトリチウムを含む汚染水の海洋放出が検討されていますが、あまり知られていないトリチウムのことについてもお話しいたします。子どもたちの未来のために私たちができること、福島原発事故（核汚染）後の望ましい健康管理のあり方をご一緒に考えていきましょう。

主 催：日本キリスト教団東北教区放射能問題支援対策室いずみ

共 催：宮城県民主医療機関連合会、日本キリスト教団東北教区宣教部委員会
生活協同組合あいコープみやぎ、日本カトリック医師会仙台支部

問合せ：Tel 022 (796) 5272 E-mail izumi@tohoku.uccj.jp



西尾正道（にしおまさみち）氏プロフィール

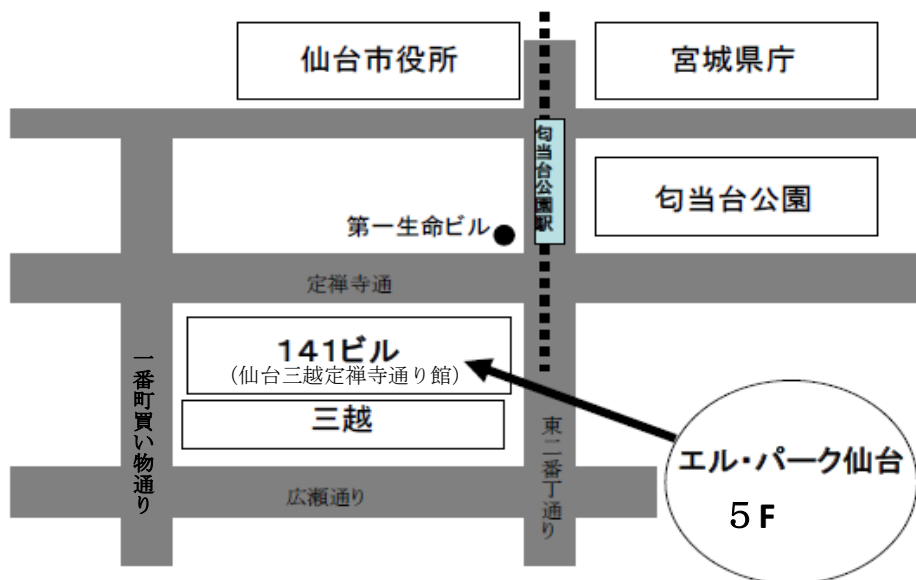
函館市出身。札幌医科大学卒業後、国立札幌病院・北海道地方がんセンター放射線科勤務。小線源治療を多用した放射線治療に長年従事。2008年4月から2013年3月まで国立病院機構北海道がんセンター院長を務め、その後同センター名誉院長として現在に至る。その他、「市民のためのがん治療の会」顧問等を務めている。

2011年3月の福島第一原発事故後は、いわき放射能市民測定室たらちね顧問。宮城県では日本キリスト教団東北教区放射能問題支援対策室いずみなどへの活動に対しても専門的立場からの助言など、多大な協力を行っている。

著書に『放射線治療医の本音ーがん患者2万人と向き合ってー』（2002年 NHK出版）、『放射線健康障害の真実』（2012年 旬報社）、『被ばく列島』（2014年 角川学芸出版・小出裕章氏との共著）、『患者よ、がんと賢く闘え!』（2017年 旬報社）など、その他医学領域の専門学術論文・著書多数

エルパーク仙台 会場地図

公共交通機関利用へのご協力をお願いいたします。お車の場合は近隣有料駐車場をご利用下さい。



「エルパーク仙台 5Fセミナーホール」

宮城県仙台市青葉区一番町4丁目11番1号 仙台141ビル 5F TEL 022 (268) 8300

- * 仙台市営地下鉄南北線「勾当台公園駅」下車 南1番出口より地下道で連結
- * バス 商工会議所前または定禅寺通市役所前下車